

学校教育目標 やさしく、たくましい子どもの育成(やさしく、たくましく)

# よく学ぶ よく遊ぶ 明るくあいさつ 黙って掃除

“子ども、保護者、地域、教職員、みんなが誇りに思い、楽しいと思える学校づくり”

〒801-0833 門司区清滝5-3-21 TEL 331-1708 FAX 331-1709 校長 三栗谷 進



1月24日(金)に、元ソフトバンクホークスの柴原 洋さんを招いての講演会を開催しました。一流のプロ野球選手だった柴原さんから子ども達へ、「夢に向かって努力すること」「自分の周りで支えてくれている人に感謝すること」などのメッセージを送っていただきました。とても有意義な時間を過ごすことができました。お世話いただいたPTA役員の皆様、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 若松 進一氏講演から

昨年、青少年育成大会に参加しました。元愛媛県の双海町教育長の若松進一様の講演がありました。また、その時に配布された、北九州市子ども家庭局作成の『非行防止対策 大事なサインを見逃していませんか?』の中に、なるほどなあと感じるところがありましたので、併せてお知らせしたいと思います。

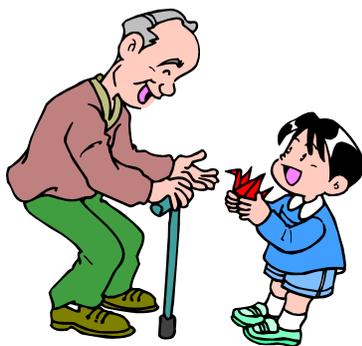
若松氏は、愛媛県青年団連合会会長、四国四県青年団連絡協議会会長、総理府派遣第10回青年の船班長などを歴任された方です。地元の双海町役場で、地域振興課長や教育長を歴任されました。夕焼けプラットホームコンサート、双海シーサイド公園など双海町の「夕日のまちづくり」を主導しました。平成15年には、国土交通省「観光カリスマ百選」に選ばれたそうです。

若松氏は講演の中で、以下のことをお話してくださいました。

- 青年活動を通して大事にしてきたこと
  - ①友人 ②主張 ③故郷 ④感動の4つを挙げていました。親や大人が自分の故郷を語れる、誇れることが子どもの故郷づくりには大切である。
- 今の子どもを見て
  - ①親と子どもの関係が分断されている
  - ②過保護の子どもが多い(親も学校も地域も)
  - ③友達がいない
  - ④夢がない(社会の役に立つという意識が低い)
  - ⑤遊びを知らない(与えられた遊びが多く、創作する遊びが少ない)
  - ⑥感動経験が少ない
  - ⑦失敗経験が少ない
  - ⑧体力・気力が無い(頑張る意味がわかっていない)
  - ⑨故郷意識が低い
  - ⑩物持ちの子どもが多い

社会の変化や少子化と共に、子どもを取り巻く環境が大きく変化してきました。上記の①～⑩は、“確かにそうだな。”と感じてしまいました。

また、「人間は生まれてから30歳まで成長する。ただ、知識だけを入れても、生かされなければ役に立たない。知恵にしていけることが大切だ。人間の能力で、目に見える、表に現れる『顕在能力は1割』、目に見えない、まだ眠っている『潜在能力は9割』だ。『本を読んで自分の考えを書く』『人の話を聞いて話し合う』『見たことを実践してみる』『記録しないと記憶されない』などに取り組んでいけば、人間は成長する。」とも言われていました。30歳は遠い昔に過ぎてしまいましたが、私自身、眠っている(?)9割の潜在能力が少しでも表に出るように『書く』『話す・話し合う』『やってみる』を心がけてみます。たとえ、



枯れてしまっても(?)いても『書く』『話す・話し合う』『やってみる』は大切なことですね。

## 非行防止対策

### 大事なサイン見逃していませんか?

北九州市子ども家庭局が作成している上記タイトルのパンフレットがあります。内容は以下の通りです。

#### 【家庭のあり方 6カ条】

- ①子どもとの対話を深める
  - ・子どもの話をしっかり聞きましょう。
  - ・よい点は誉め、自信を付けさせましょう。
  - ・触れ合いの機会を多くつくりましょう。
- ②基本的生活習慣の習得
  - ・朝ご飯をしっかり食べましょう。
  - ・家族からあいさつの輪を広げましょう。
  - ・テレビやゲームの時間を決めましょう。
- ③思いやりの心を育てる
  - ・動物をかわいがり、命の尊さを教えましょう。
  - ・他人に対する優しさ、思いやりの心を育てましょう。
- ④我慢する力を付けさせる
  - ・つらいことでも最後までやらせましょう。
  - ・約束は必ず守らせるようにしましょう。
  - ・子どもの欲求は、むやみに満たさないようにしましょう。
- ⑤子ども同士のかかわりを大切に
  - ・保護者同士の連絡を取り合しましょう。
  - ・地域の行事には積極的に参加しましょう。
  - ・保護者の感覚で子どもの友達を選ばないようにしましょう。
- ⑥子どものお手本となるように
  - ・よいことは自ら率先して行動しましょう。
  - ・自分自身を省みて、子どものお手本となるように努めましょう。

#### 【保護者の皆様へ】

- 様々な統計などで、子どもが非行に走る確率が高い家庭に、親の「放任」や「過保護・過干渉」が見られます。
- なぜ、子どもを放任するのでしょうか。仕事が忙しいから?ウチの子は大丈夫と思っているから?
- 非行を踏みとどまらせるのは、親との思い出とも言われています。
- 非行防止に最も必要なことは、「親の愛情」です。愛情を十分に注がれて育った子どもは人を愛することを学び、誉めてあげれば「自信」をもち、たくましく強い子どもに育ちます。

家庭教育の大切さや大人の規範意識の向上などは、耳にタコができるほどお聞きになっていると思います。しかし、何度でも聞いたり見たりしながら、日常生活に少しでも生かしていきたいものです。

子どもの変化に、『感情的』『暴力・頭ごなし』『管理を強める』をしても、子どもには伝わらないとも言われています。親や大人が考えるように、子どもは育っていかないこともあります。でも、自分の頑張っていることを保護者の方と話し合えることは、子どもにとっては、『受容』『信頼』されている自分を感じ取ることができると思うのです。きっと、そんな時は心に染み込むのではないのでしょうか。

子どもの心に、優しい気持ち、思いやりの気持ち、温かい気持ちなどが、いっぱい膨らんでいくとうれしいですね。

『心を育てる』ことこそ、大切にしていかなければならないことではないのでしょうか。私達大人が、大きく豊かな心をもてるように努力していきたいものです。